

知識情報・図書館学類には、知識科学主専攻、知識情報システム主専攻、情報資源経営主専攻の三つの主専攻があります。平成 27 年度（2015 年度）から、情報経営・図書館主専攻は情報資源経営主専攻に名称変更となりました。

11. 卒業研究

卒業研究の指導教員は 3 年次の 11 月に仮決定します。学生は自分が所属する主専攻の指導教員一覧から希望する教員 1 名を選択します。学生は教員の指導方針を十分理解し、指導方針を受け入れる場合のみ応募できます。指導の前提条件に合致しない応募は無効です。応募者が定員を超えた場合、どの学生を受け入れるかは教員が判断します。3 年次の 4 月に 45 単位未満しか単位を修得できていない場合、履修登録の上限があるので、翌年度に卒業研究着手に必要な 90 単位には到達不可能です。そのため、卒業研究指導教員の決定プロセスには参加できません。

卒業研究の準備は 3 年次 12 月から始めます。何をどのようにやるかは教員によりますが、単位にはなりません。授業科目としての卒業研究は 4 年次の 4 月に履修登録します。4 月の時点で卒業要件科目を 90 単位以上修得できていないと、卒業研究を履修できず、指導教員の決定も白紙に戻ります。

卒業研究は通年科目なので、4 月からの 1 年間を継続して履修しなければなりません。途中で休学すると、翌年 4 月から 1 年間かけて履修し直すことになるので注意してください。単位修得のためには、着手発表、中間発表を経て、所定の条件に合う卒業論文を提出した上で、最終発表を行う必要があります。卒業研究が 1 年間で終了しなかった場合、期間を延長して翌年度以降の各学期末に卒業が可能です。着手発表あるいは中間発表ができなかった場合は、翌年 4 月から 1 年間かけて履修のやり直しになります。

原則として指導教員は変更できません。変更は当該年度の卒業研究の履修放棄と見なします。ただし、4 年次 4 月の履修申請期間までなら、新しい指導教員の了解を得られた場合に限り、そのまま卒業研究に着手できます。そうでない場合、指導教員を次回の指導教員決定プロセス中で選択し直し、改めて卒業研究に着手することになります。

卒業論文は印刷版と電子（PDF）版の両方の形式で提出し、電子版は学類の定める閲覧場所で誰もが閲覧できるようにして永続的に保存します。また、卒業研究の抄録は学類の Web ページ等で一般に広く公開します。

12. 早期卒業、大学院への推薦

2 年次終了時点で卒業に必要な単位を 90 単位以上修得し、累積 GPA が上位 3 位以内である人は早期卒業へのチャレンジ資格を得ます。早期卒業を希望する人は、3 年次から卒業研究に着手し、秋学期末に卒業要件を満たし、卒業研究の内容が優秀であると認められた場合はその学期末に卒業できます（細則 7 条）。

早期卒業にチャレンジ中の人と 3 年次秋 B 終了の時点で GPA によって成績優秀と判定された人は、7 月に行われる大学院図書館情報メディア研究科の推薦入学試験に対する推薦を受けることができます。他の大学院への推薦資格も図書館情報メディア研究科への推薦に準じて判断します。3 年次編入生の GPA は編入後に本学で履修した科目だけで計算されることに注意してください。

13. 外国語

本学類の教育課程は、語学、特に英語の能力を発展させることを目標の一つとしています。そのため、第2外国語を必修とするとともに、2～3年次に必修科目として専門英語を置き、卒業まで継続的な語学学習を促しています。また、一部の専門科目では英語による授業を行うほか、学類共通の専門科目である「国際インターンシップ」では外国の図書館や情報センター等での就業体験の中で国際的なコミュニケーション力を養うことができます。

第2外国語は共通科目の外国語科目の中から英語以外の1つの言語を選択して履修します。異なる言語の修得単位を合わせても卒業要件は満たしません（例えば、ドイツ語1.5単位とフランス語1.5単位を履修しても卒業できません）。

共通科目の英語は、入学直後のプレイスメントテストの結果をもとに、受講クラスが指定されます。総合評価がDまたは履修放棄であった人は、再履修しなければなりません。外国語の再履修には履修クラスの授業担当教員の許可が必要です。

外国語の学習をさらに発展させたい人のために、2年次以上を対象に、外国語中級、外国語上級が外国語センターによって開設されます。これらの科目は共通科目の選択科目として卒業要件に含めることができます。また学類開設の専門英語が、必修科目として2年次と3年次に開設されます。3年次秋ABの専門英語C（平成22年度以前入学者は専門英語Ⅳ）では試験に代えてTOEIC-IPを実施します。

大学での単位修得だけでなく、TOEICやTOEFL、英検など対外的に通用する語学能力検定を受検することもお勧めします。これらの検定は大学院入試で英語に代えて課されることが増えており、例えば図書館情報メディア研究科博士前期課程の入学試験でも、TOEICまたはTOEFLのスコア提出が必要です（平成27年度現在）。また、米国留学にもTOEFLのスコアが必要です。高いスコアを持っていることは就職活動でも有利に働きますし、就職後にTOEICの受検を求められることもあります。なお、専門英語Cで実施するTOEIC-IPはTOEICの団体受験用の試験です。この種の試験は、現在の自分の実力を確かめ、着実に勉強を重ねることによって、数ヶ月後、一年後にスコアが改善していくものです。その意味で、早い時期から長期的に取り組むことをお勧めしています。

14. キャリア教育

キャリア・ポートフォリオ(CARIO)は本学が独自に考案・推進しているキャリア教育のための教材です。1冊のフォルダに、筑波大学での学生生活におけるさまざまな経験や経験を通じて気づいたことを記録し、保存します。フレッシュマン・セミナーで、キャリア・ポートフォリオの作成を始めますが、キャリア・ポートフォリオは一度で完成するものではなく、在学中継続して使い続けるよう設計されています。あなたが広い意味での進路選択に直面した時に、キャリア・ポートフォリオに記録されたあなた自身の「気づき」が、大きな助けになるはずです。キャリア・ポートフォリオを活用するため、総合科目「キャリアデザインⅠ」をできるだけ受講するようにしてください。

本学類では、1年次の必修科目「フレッシュマン・セミナー」「情報リテラシ実習」の一部でキャリア教育に関する内容を扱います。3年次では、専門科目（選択）として「インターンシップ」「国際インターンシップ」があります。「インターンシップ」では、図書館や企業などで3週間程度の就業実習を体験します。「国際インターンシップ」では、海外の図書館や情報センター等に10日間程度派遣します。4年次では、必修科目の「知識情報特論」の中で研究や進路に関わる視野を広げられるようにします。

15. 司書資格

平成 24 年度に司書資格科目の改訂（単位増）が行われました。平成 24 年 3 月 31 日以前に本学に入学または編入学し、司書に必要な全ての単位を修得して本学を卒業した場合は改訂前の単位数で司書の資格が認められます。

「図書館に関する科目」に指定されたうち 16 科目（平成 23 年度以前入学者は 14 科目、以下同様）を履修することで司書の資格を取得できます。本学類のカリキュラムでは、2 年次までの専門基礎科目として 10 科目（9 科目）を修得し、3 年次以降で専門科目として 6 科目（5 科目）を修得するよう計画しています。専門科目は主専攻をまたがって開講されており、いずれの主専攻を選択しても、無理なく司書資格の取得が可能です。司書資格は公共図書館のための資格であり、他の館種では必須ではありませんが、図書館関係の専門職を目指す人には司書資格の取得を勧めます。「インターンシップ」は選択科目ですが、司書を目指す人は就職先として希望する館種の図書館を実習先に選択して受講するよう強く勧めます。

16. 教員免許、司書教諭資格

本学類では所定の単位を修得することで社会（中学校）、公民（高校）、数学（中学校・高校）、情報（高校）の教育職員免許が取得できます。ただし、卒業のための単位と別に相当数の科目を余分に修得しなければならず、かなりの負担増になります。教員免許に必要な科目の多くは、学類の教育課程とは無関係です。時間割などは可能な範囲で配慮しますが、学類としてそれ以上の便宜は図りません。教員免許取得は自己責任で行ってください。

教員免許に併せて、「大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目」5 科目を修得することで、司書教諭資格が取得できます。3 年次に 5 科目全てを履修し、4 年次 6 月に司書教諭講習への書類参加（講習に代えて単位取得証明の提出によって司書教諭資格を得る手続き）を申請してください。履修が遅れて、手続きが在学中にできなかった人は、文部科学省の窓口に書類参加手続きを行うことができます。司書教諭資格のための 5 科目は、教員免許の「教科または教職に関する科目」に含めることができますし、同時に卒業要件上の他主専攻専門科目となります。教員免許を取得する場合は司書教諭の資格を同時に取得するよう勧めます。なお、所定の 5 科目を履修しても、教員免許を取得しないと司書教諭資格は取得できません。

17. 学芸員資格

平成 24 年 4 月以降の入学・編入学者とそれ以前の入学・編入学者では資格取得に必要な単位数が変わりました。教育課程そのものが平成 24 年度に一新されているので、平成 23 年度以前の入学者で学芸員資格の取得を目指している人は、本件に関する掲示等を注意して読むようにしてください。

平成 24 年度以降の入学・編入学の学生なら誰でも「博物館に関する科目」に指定されたうち 20 単位を履修し、卒業後に博物館の学芸員職として就職することで学芸員の資格を得ることができます。つまり就職して初めて取得できる資格です。学芸員は博物館資料の収集・保管・展示および調査研究などに関する専門的職務を行う人であり、その職務には「博物館に関する科目」だけでなく、歴史、自然、美術など、博物館の種類に応じた分野ごとの専門的な主題知識こそが重要です。学芸員を目指そうとする

人は、本学類の専門領域が一般的な博物館で求められる専門領域とは異なっていることを十分認識し、どのような博物館での活躍が可能かなど、具体的な検討の上で資格取得をめざしてください。

18. テクニカルコミュニケーター専門課程

テクニカルコミュニケーター協会が指定する科目を 18 単位以上取得し、単位取得証明書を協会に申請することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定を得ることができます。テクニカルコミュニケーターとは、製品やサービスに関して利用者が求める情報を正確にわかりやすく表現し、効果的に伝達するための基礎知識と技能を有する人のことを指します。司書資格や学芸員のような国家資格ではありませんが、本学類の科目を修得することでテクニカルコミュニケーター協会が認定する知識と技能を身につけたと判断されます。

(参考:http://www.jtca.org/seminar/pro_program.html)

19. 留学

在学中に海外の協定校等に留学（交換留学）して、学類の専門教育の一部を修めることができます。学類長の許可を経た正式な留学は本学の在学年限に加算され、留学先で履修した単位は学類教育会議の議を経て卒業要件に算入できます。語学研修や異文化体験を目的とする留学の場合、長期休業を利用し、あるいは大学を休学して行いますが、在学年限に算入されず、単位も認定されません。留学を成功させるには十分な準備と計画が必要です。クラス担任に相談するとともに、留学生センターによる説明会や個別相談を活用してください（参考：<http://www.tsukuba.ac.jp/global/>）。学年途中からの留学によって科目の履修が中断した場合、復学後に当該科目の履修を再開できる場合があります（継続履修制度）。詳しくは学群学務係にご相談ください。

留学とは異なりますが学類共通の専門科目である「国際インターンシップ」も国際的な経験を深める良い機会なので受講を検討してください。

20. 外国人留学生および帰国生徒

外国人留学生および「外国において相当の期間、中等教育を受けた学生」（帰国生徒）には、総合科目、第 1 外国語または第 2 外国語、関連科目について 13 単位を限度として「日本語・日本事情に関する科目」の履修による振替を認めることがあります。振替には、入学して最初の履修申請期間内に単位振替申請の手続きが必要です。教員による面接が必要ですので、必ず事前に学群学務係の窓口にご相談してください。

21. 入学前に履修した単位・他大学で受講した単位の認定

入学前に履修した単位は、学類が教育上有益と認める場合、本学で履修した単位として 60 単位まで（編入学生は上限なし）を認定します。「本学で履修した単位として認定」とは、実際に受講することなく本学が開設した同等科目の単位を与えるという意味です。単位認定の申請は入学直後の学期にクラス担任と相談しながら行ってください。入学後に履修した単位で単位認定できるのは、単位互換制度を結んでいる大学の単位のみです。

認定された単位は卒業要件には有効ですが、司書、司書教諭、教員免許などの資格取得に使うことは

できません。ただし他大学において修得した資格科目と本学で修得した資格科目を合算して資格を取得することはできます。例えば、他大学で司書科目の「図書館概論」相当の科目を修得している人は、資格取得のために本学の「図書館概論」を履修する必要はありません。

本学の科目を修得して資格取得を目指す人は、修得すべき科目で単位認定を受けないよう注意してください。単位認定を受けると修得済みとみなされ、その科目を履修できなくなります。一方、認定を受けても、資格取得上は修得したとはみなされないのです、結局資格を得ることはできません。

筑波大学の授業科目と対応づける際には、1対1だけでなく m 対 n (m, n は科目数) の組み合わせが可能です。ただし、実際に修得した以上の単位数を認定することはできないので、他学で m 科目の履修によって修得した合計単位数 k は、筑波大の対応する n 科目の合計単位数 l 以上でなければなりません ($k \geq l$)。

専門基礎科目の必修科目のうち知識情報概論、知識情報演習 I/II/III の4科目は本学類の学生が必ず受講する科目と位置づけており、単位認定は行いません。また、原則として専門科目の単位認定は行いません。ただし、「学校図書館論」を除く司書教諭科目4科目については、「大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目」に相当する単位を認定します。

科目選択ガイド

1. 卒業要件の科目区分とクラスタ

本学類の卒業要件は細則の別表 1 に定められています。カリキュラムを学年の進行に沿って表すと表 1 の履修計画となります。履修計画では、1 年次はほとんどが必修科目ですが、徐々に選択の幅が広がり、3 年次にはほとんど全ての科目を自分で計画的に選択しなければなりません。卒業には最低 125.5 単位が必要です。以下では基礎科目（共通科目と関連科目）、専門基礎科目、専門科目の順に履修の方法を説明しますが、その前に必修科目と選択科目の違いを理解しておきましょう。必修科目は必ず修得しなければならない科目、選択科目は特定の目的で開設される限られた科目の中から選んで履修する科目です。

本学類では専門基礎科目や専門科目として開設している科目群を、専門教育としての関連性を考慮し、クラスタという単位にまとめています。クラスタ単位に履修することで、関連した内容を有機的かつ十分に学修できるようになっています。

本学類の開設科目名のハイフンに続くアラビア数字は同一科目の別クラスであることを示します。同一科目は重複して履修できません（たとえば、テキスト解釈-1 とテキスト解釈-3）。

2. 基礎科目

基礎科目は幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養することをめざして設けられた区分で、大学生として共通に学ぶべき科目群である共通科目と学類ごとに内容を定める関連科目に分かれ、それぞれに修得単位数が定められています。共通科目の履修方法は全学で統一して定められています。

本学類では共通科目の必修科目として、総合科目Ⅱを 5 単位、総合科目Ⅲを 1 単位、総合科目Ⅰとしてフレッシュマン・セミナーを 1 単位と情報リテラシ実習を 1 単位の計 2 単位、体育を 2 単位、第 1 外国語（英語）を 6 単位、第 2 外国語を 3 単位の合計 19 単位以上修得することになっています。フレッシュマン・セミナー以外の総合科目Ⅰは本来どの科目を履修しても良いことになっていますが、本学類では情報リテラシ実習（必修）を履修しなければなりません。

体育、第 1 外国語、第 2 外国語は学類・学年ごとに曜時限・クラスが指定されており、原則として変更できません。全学で履修の仕方は共通していますので、履修に際しては、履修要覧と掲示を注意して読むようにして下さい。

3. 専門基礎科目

専門科目の前提として学んでおくべき基礎的な科目群を専門基礎科目といい、本学類では概ね 1～2 年次を対象に開設します。いずれの主専攻にも共通する基礎的内容です。12 科目 22.5 単位の必修科目すべてと 21 科目中 16 科目（32 単位）以上の選択科目を修得することが卒業の要件です。専門基礎科目の選択科目は、できるだけ多くの科目を履修するよう計画してください*。

・2 年次向けの専門基礎科目をすべて 2 年次に履修登録すると、共通科目 2.5 単位と合わせて 44 単位となり、キャップ制のほぼ上限に達します。

専門基礎科目のうち「知識と人間」クラスタの4科目は知識科学主専攻の専門領域に関わる導入的な内容、「知識とシステム」クラスタの4科目は知識情報システム主専攻の、「知識と社会」クラスタの4科目は情報資源経営主専攻の導入的科目群です。2年次にはこれらの科目を学びながら、どの主専攻を志望するかを考えてください。

表 1 標準履修年次別の科目配分に基づく履修計画（平成 27 年度以降入学者用）

区分		1 年		2 年		3 年		4 年		必要
共通		体育 総合Ⅰ 総合Ⅱ 第1外国語（英語） 第2外国語 （計5科目15.5単位）	1 2 5 4.5 3	体育 専門英語基礎演習 （計2科目2.5単位）	1 1.5	総合Ⅲ	1			19
専門基礎科目	必修	知識情報概論 哲学 情報基礎 情報基礎実習 プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ 情報数学 統計 （計8科目15単位）	2 2 2 1 2 2 2 2	知識情報演習Ⅰ 知識情報演習Ⅱ 知識情報演習Ⅲ 専門英語 A （計4科目7.5単位）	2 2 2 1.5					22.5
	選択	情報社会と法制度 情報システム概説 基礎数学 A 図書館概論 （計4科目8単位）	2 2 2 2	基礎数学 B 知的財産概論 量的調査法 多変量解析 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステム とネットワーク 自然言語解析基礎 メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 テキスト解釈 （計17科目34単位）	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2					32
	選択			知的探求の世界Ⅰ	1.5	知的探求の世界Ⅱ	1			
専門科目	必修					主専攻実習 専門英語 B, 専門英語 C	2 1 1	卒業研究	6	10
	選択					自主専攻の専門科目 他主専攻・学類共通の専門科目			20 8	30
								知識情報特論	2	
自由										12
合計		（必修30.5単位）	38.5	（必修10単位）	40	（必修5単位）	33	（必修6単位）	14	125.5

合計欄に示した単位数は卒業に向けて必要な最小限の単位数を各学年に割り振った目安です。上限 45 単位の範囲内で、実際には各学年でこれよりも多くの単位を修得するよう履修計画をたててください。

「知的探求の世界Ⅰ」「同Ⅱ」は、三つの狙いを持って開講されます。第一の狙いは、深い教養教育の機会の提供です。教養とは個人が社会と関わり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身につけるものの見方、考え方、価値観の総体です。知識情報・図書館学類は、多様なものの見方、考え方を学ぶ機会を提供していますが、それに対して、一つの主題領域を深く学ぶ過程を経験する機会として「知的探求の世界」を位置づけます。二つめの狙いは、カリキュラムの枠組みを超えた自由な学びの場の提供です。本学類には人文学、社会科学、理工学など多様な専門領域を持つ教員が揃っています。その多様性を活かして、カリキュラムの構成とは別に、その枠を超えた自由な教育の場として、「知的探求の世界」を位置づけます。三つ目の狙いは、教員との長い、深い接触のもとで行われる少人数教育の提供です。教育には単なる知識の伝達を超えたものの見方、考え方、知恵、技といったものの伝承という側面もあります。師と弟子のような、しかし現代的な自由な関係の中での少人数教育として、「知的探求の世界」を位置づけます。

そのため、「知的探求の世界」は各教員がカリキュラムの枠を超えて自由に特定領域を設定し、内容も方法も全く自由に構成します。しかも、教員の講義を聞いて受動的に学ぶスタイルではなく、教員のガイドのもとに学生が自分の力で学ぶことを基本とします。例えば、その領域の古典の講読に集中する場合もあるでしょうし、入門から発展までの講読を体系的に進めることもあるかもしれません。演習を通じてある技術を深く習得する場合もあるでしょう。「知的探求の世界」は、2年次から1年半という長い期間をかけて継続的に、入門から一定の深さに至るまでの一貫した学習ができるようにします。しかし、卒業研究が始まるまでには終わり、卒業研究と並行して履修することはありません。また、卒業研究の指導と知的探求の世界の履修は連動しません。卒業研究の指導教員は、決定ルールに従って定めます。結果的に同じ指導教員になることもあり得ます。「知的探求の世界Ⅰ」「同Ⅱ」は、万人向けの内容ではないので、科目の趣旨をよく考えて受講してください。

4. 専門科目

3年次に主専攻が決まると、自分が所属する主専攻の主専攻実習を履修しなければなりません。また専門英語B（平成22年度以前入学者は専門英語Ⅲ）（春AB）と同C（同、専門英語Ⅳ）（秋AB）も必修科目です。

3～4年次には、自分の主専攻の専門科目を20単位（10科目）以上、他の主専攻の専門科目あるいは学群共通科目（専門科目）や学類共通の専門科目から合計して8単位（4科目）以上を修得してください。主専攻ごとに17科目前後の選択科目が開設されます。他主専攻の主専攻実習は他主専攻の専門科目の一つとして（実習の定員範囲内で）履修できます。卒業に必要な専門科目の大半は3年次に履修できるはずですが、4年次は知識情報特論を学期に各1科目（計2単位）と卒業研究（6単位）を必ず履修してください。4年次には多くの時間を卒業研究に使えるよう計画してください。

5. 自由に選択できる科目

卒業のために必要な125.5単位のうち12単位は、あなた自身の興味・目的に沿って自律的・計画的に学習できます。これは平成26年度（2014年度）まで「自由科目」と呼ばれていた科目区分です。外国語の学習を深めても良いでしょうし、あなたが興味を持っている他学類の専門領域を学んでも良いでしょう。本学類の専門領域を深く学ぶために専門科目や専門基礎科目を人よりも多く学ぶことも可能です。

ただし、12 単位分を履修する際、科目区分や科目ごとに卒業要件として認められる単位数の上限が決められています。たとえば、専門基礎科目の選択科目は 8 単位まで（合計で 40 単位まで）、専門科目の選択科目は 8 単位まで（合計で 38 単位まで）が卒業要件として認められます。したがって、他の区分の科目と合わせて、12 単位以上とする必要があります。

共通科目のうち、5 単位を超えて修得した総合科目Ⅱ、1 単位を超えて修得した総合科目Ⅲ、自由科目として開設される体育の単位なども、この 12 単位分に含めることができます。

関連科目については、博物館に関する科目、他学類の開設科目を含めることができます。一方、「教職に関する科目」をこの 12 単位に含めることはできません。なお、他学類の科目を履修する場合は、標準履修年次を尊重し、シラバス（他学類のシラバスは各学類の Web サイトで公開されています）で受講制限の有無や前提となる科目や知識等を良く確認してください。また初回の授業には必ず出席し、担当教員に受講の可否を確認することをお勧めします。一般に、基礎的な知識を持たずに専門性の高い科目を受講しても単位修得は困難ですし、授業形態によっては他の受講者の迷惑にもなります。

表 2 自由に選択できる科目の上限

区分	カテゴリ等	上限
共通科目	総合科目Ⅰ	12
	総合科目Ⅱ	
	総合科目Ⅲ	
	体育	
	国語	
	芸術	
	外国語	
関連科目	博物館に関する科目	12
	他学類の開設科目	
専門基礎科目	選択科目	8
	知的探求の世界	
専門科目	知識情報特論	8
	自主専攻	
	他主専攻・共通	

専門基礎科目では、32 単位を超えて修得した選択科目と「知的探求の世界」を合計 8 単位まで自由に選択できる科目に含めることができます。また、専門科目では、2 単位を超えて履修した「知識情報特論」、20 単位を超えて履修した自主専攻の専門科目、8 単位を超えて履修した他主専攻や学群共通・学類共通の専門科目を合計 8 単位まで自由に選択できる科目に含めることができます。

卒業研究のてびき

卒業研究とその成果物

本学類では卒業研究は必修科目であり、卒業して学士の学位を取得するために必ず通過しなければならない関門です。それと同時に、卒業研究はみなさんが初めて取り組む研究活動であり、小さいながらも知識情報分野の研究テーマに自律的に取り組んで、その方法論的基盤を獲得することを目標にしています。

その達成プロセスとして、研究の実施、卒業論文の作成、その成果の発表がみなさんに求められます。目標達成の証拠として、みなさんが提出しなければならないものは以下の4点です。

- a. 抄録（A4判1頁にまとめた研究成果の要旨）1部
- b. 卒業論文1部
- c. 電子版抄録（aをそのままPDFに変換したもの）
- d. 電子版卒業論文（bをそのままPDFに変換したもの）

いずれも様式と仕様が定められています。aとbは卒業論文提出期限までに、cとdはその翌日までに提出しなければなりません。日程と提出場所の詳細は別途公表します。

成績評価

卒業研究に対する成績評価は通常の科目と同様にA+からDの5段階でおこなわれます。評価の前提として、

- ・着手発表会、中間発表会、最終発表会で発表していること
- ・卒業論文およびその抄録（電子版を含む）を指定日時までに提出していること

が必要です。成績評価に先立ち、まず合否判定が行われます。合否判定の第一段階は、最終発表会での発表に対して行われ、最終発表会に出席した主専攻担当教員および協力教員全員が「優れている」「十分」「不十分」の記名評価を行います。教員は以下の五つの判断基準のひとつ以上に該当すると判断した場合に「不十分」の判定を下します。

仕事 卒業研究として十分な作業量がない

課題 目的に対して、研究の位置づけや課題の設定に明らかな問題がある

手法 設定された課題に対して妥当な研究方法が選ばれていない

結果 結果の正確性、妥当性のいずれかに重大な疑問がある

論理 説明に飛躍や矛盾が多い

指導教員が「不十分」と判定した場合または3名以上の教員が「不十分」と判定した場合は再審査を実施します。再審査では、主専攻主任が指名する3名の教員（原則として、指導教員、不十分判定を下した教員、不十分以外の判定を下した教員）から構成される審査委員会が、提出された論文、最終発表会での発表内容、指導教員による当該研究過程の説明を踏まえて合否判定を行います。判断基準は同じく上記の5つです。

合否判定の結果や再審査の対象者名は学生には一切周知しません。再審査は学生を交えずに実施し、再発表や口頭試問を課すことなく合否を判断します。なお、再審査の結果、成績報告期限までに論文修正を求められることがあります。この場合、期限までに要求された修正が確認できれば合格、できなかった場合は不合格

(D)となります。合格者の成績(A+/A/B/C)は論文、最終発表、研究過程、再審査を経た場合は審査委員会での評価を総合的に加味して指導教員が判断します。

以上が成績評価のプロセスですが、上記の審査とは別に、指導教員の判断により、主専攻担当教員に卒業論文の査読を依頼することがあります。査読は成績評価とは無関係な手続きで、論文に対する改善意見を第三者から得ることを目的としています。学生は査読報告にもとづいて、期限までに必ず卒業論文を修正しなければなりません。ただし、再審査になった場合、査読者は原則として審査委員に指名されるので、審査委員会からの修正要求があった場合は査読報告による修正よりも優先して対処してください。

再審査における卒業論文の修正、査読に対する修正のいずれも電子版の卒業論文を更新する形で行いますが、提出済みの印刷版卒業論文と全く異なる内容にしてはいけません。許されるのはあくまで完成度を高めるための軽微な修正に限ります。自主的に修正する場合も同様です。

成果の公表

卒業論文はみなさん自身の研究成果ではありますが、指導教員や本学類の教育の成果でもあります。また、卒業研究は多くの先行研究を踏まえて行われ、それら研究成果が入手できなければ、みなさんの卒業研究の進捗に大きく影響したはずで、みなさんの研究成果を組織的に保存し、必要とする人の利用に供することは学類の理念を実践することであり、本学類を卒業するみなさんにとっては社会的な義務であるとも言えます。

そのため、本学類では次の二つの方法で成果の公表を行います。ひとつは抄録の公開です。抄録は製本してみなさんに配布するだけでなく、本学附属図書館に納めます。また、本学類に興味を持つ、あるいはみなさんの研究テーマに興味を持つ誰もがアクセスできるように、電子版を学類の Web ページからも公開します。

第二は卒業論文本体の公表です。卒業研究をすすめるにあたって、同じ研究室の先輩の卒業論文を参考にした人は少なくないでしょう。抄録集から別の研究室で自分のテーマに近い研究が行われていたことを発見し、その卒業論文を探した人もいるかもしれません。また、研究室を決めるときに、その研究室でどんな卒業論文があるかを読みたいと思います。これまで、過去に提出された卒業論文を読む確実な方法はありませんでした。知識情報・図書館学類では、みなさんが提出した電子版の卒業論文を永続的に保存し、図書館情報学図書館内からのみアクセスできるという制限をつけて閲覧に供することとしました。想定される主な利用者はみなさんの後輩である知識情報・図書館学類生です。

なお、これから雑誌論文として投稿する等、一時的に公表を避けなければいけない事情がある場合は、論文の公表を猶予することができます。指導教員とも相談の上、論文提出と同時に公表猶予申請書を提出してください。抄録にはそのような制度を設けていません。抄録、卒業論文ともにみなさんの著作物ですが、これから卒業研究を行う後輩たちのために、また、学類の英知を結集するために、みなさんの貴重な研究成果が必要です。本学類はこのような理由に基づき、卒業研究の蓄積と公開・公表を行うという方針を採用しています。

教職ガイド

1 教員をめざすにあたって

知識情報・図書館学類では社会（中学）、公民（高校）、数学（中学）、数学（高校）、情報（高校）の免許を取得できます。平成 21 年から教員免許更新制が導入され、一度とれば永久という資格ではなくなりました。教員として就職するためには中学・高校両方の免許を持つ方が有利だと言われています。情報は高校の免許しかないので、社会（中学）あるいは数学（中学・高校）と組み合わせることを検討すると良いでしょう。ただし、情報の採用は極めて少なく、社会・公民の採用は激戦です。それでも教員をめざすつもりなのかどうか、よく考えてください。

2 単位等の要件

免許を得るためには、学士の学位（＝大学を卒業すること）、「教職に関する科目」31 単位（高校免許は 26 単位）、「教科に関する科目」20 単位、「教科又は教職に関する科目」8 単位（16 単位）、「その他の科目」10 単位が必要です。また、中学免許取得には「介護等体験の意義」（1 単位）を受講した上で、合計 7 日間の「介護等の体験」に参加しなければなりません。「教職に関する科目」は学類ごとに受講クラスが指定されますが、本学類は原則としてどのクラスでも受講できます。「教育実習」と「教職実践演習」を除く「教職に関する科目」は 1～3 年次で全て修得するようにしてください。

「教科に関する科目」で必修と指定されている科目は各区分における「一般的包括的な内容」を含む科目です。例えば社会（中学）では「東洋の歴史と文化」と「欧米の歴史と文化」の 2 科目を修得することで外国史の「一般的包括的な内容」を学んだと見なされます。

教育実習は 4 年生に実施します。卒業研究や就職活動と重なり、現場での実習で得ることは多いのですが、相当なハードワークになることを覚悟して臨んでください。

なお、学類時間割（p.2～3）の欄外に教職科目の履修を想定した記述がありますが、あくまで参考にとどめ、自己責任で履修計画を立ててください。

資 料

情報学群履修細則

平成19年4月1日
情報学群部局細則第3号

改正 平成20年情報学群部局細則第1号
平成20年情報学群部局細則第2号
平成22年情報学群部局細則第1号
平成23年情報学群部局細則第1号
平成24年情報学群部局細則第1号
平成25年情報学群部局細則第1号
平成25年情報学群部局細則第2号
平成26年情報学群部局細則第1号
平成26年情報学群部局細則第2号

(趣旨)

第1条 この部局細則は、筑波大学学群学則（平成16年法人規則第10号。以下「学群学則」という。）第1条の2第1項、第25条、第25条の2、第28条、第31条、第33条、第35条第3項、第39条及び第40条の規定に基づき、情報学群における人材養成に関する目的その他教育研究上の目的（次条において「人材養成目的」という。）、教育課程の編成及びその履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(人材養成目的)

第1条の2 学群学則第1条の2第1項の規定に基づき、情報学群では、知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成する。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的行動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指す。

2 各学類の人材養成目的は、次の表のとおりとする。

学 類	人材養成目的
情 報 科 学 類	現代社会の原動力である情報を生成・伝達・変換・活用するための工学的な技術やその原理となる数理や自然科学を理解し、それを実社会における様々な問題に適用して解決する実践力を備え、グローバルな視点に立って情報技術の発展を主体的に担うことができる人材を養成する。
情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	これからのネットワーク情報社会を発展させるために不可欠な基盤的技術分野や、Web・映像・音楽などの多種多様な情報をコンテンツとして扱い流通させる分野などにおいて、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる技術者、研究者を養成する。
知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	知識や情報を活用する能力を育み、関連する社会制度と技術の専門教育を行う。これらの教育を通じて、知識資源の形成、加工、流通、利用の発展に寄与する専門家と人間、社会、技術にわたる総合的視野や問題解決能力を持った職業人を育成する。

(主専攻分野)

第2条 学群学則第25条の部局細則で定める主専攻分野は、次の表のとおりとする。

学 類	主 専 攻 分 野
情 報 科 学 類	ソフトウェアサイエンス、情報システム、知能情報メディア
情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	情報メディア創成
知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	知識科学、知識情報システム、情報資源経営

(履修方法)

第3条 学群学則第39条第1項の部局細則で定める情報学群における主専攻分野別の「専門科目」、「専門基礎科目」及び「基礎科目」ごとの卒業に必要な履修科目及び履修単位数は、別表第1のとおりとする。この場合において、「基礎科目」のうち、「共通科目・情報」の単位については、情報科学類にあつては「専門科目」、情報メディア創成学類及び知識情報・図書館学類にあつては「専門基礎科目」の履修により修得した単位をもって充てるものとする。

(主専攻分野の選択条件)

第4条 学群長は、学生の主専攻分野について、学生の希望を勘案し、入学した年次終了時以降に選考を行い、学類教育会議及び学群運営委員会の議を経て決定する。

2 学生が主専攻分野を選択するにあたって、あらかじめ、履修すべき授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。

(履修科目の登録の上限)

第5条 学群学則第33条第1項の部局細則で定める履修科目の登録の上限は、45単位とする。ただし、編入学を許可された者の履修科目の登録の上限は、入学した年に限り55単位とする。これらの場合において、「教職に関する科目」は、この単位数に含めない。

2 学群学則第33条第2項の部局細則で定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる場合の要件及び単位数は、次の表のとおりとする。

学 類	要 件	単位数
情 報 科 学 類	(1) 前年度において卒業の要件として必要な単位を40単位以上修得し、その60%以上が「A+」または「A」である者 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位
情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	(1) 前年度において卒業の要件として必要な単位を40単位以上修得し、履修申請を行った全科目の単位数（ただし教職に関する科目は除く）の60%以上が「A+」または「A」である者 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位
知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	(1) 前年度において卒業の要件として必要な単位を40単位以上修得し、その70%以上が「A+」または「A」である者 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位

(成績の評価)

第6条 学群学則第35条第3項の部局細則で定める合格及び不合格の評語を用いることができる授業科目は、「フレッシュマンセミナー」とする。

2 学群のGPA制度における学期GPA及び累積GPAの対象から除かれる科目は、次の表のとおりとする。

学 類	学期GPA及び累積GPA対象除外科目
情 報 科 学 類	基礎科目-関連科目
情報メディア創成学類	関連科目-自由科目
知識情報・図書館学類	なし

(早期卒業)

第7条 学群学則第40条に規定する早期卒業の対象者及び基準は、次の表のとおりとする。

学 類	対 象 者	基 準
情報科学類	2年次終了時において卒業の要件として必要な単位を85単位以上修得し、かつ、成績が上位10%以内にある者について、卒業の見込み等を総合的に勘案して判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定めている126単位を修得した者
情報メディア創成学類	2年次終了時において卒業の要件として必要な単位を85単位以上修得し、その90%以上が「A+」または「A」である者について、卒業の見込み等を総合的に勘案して判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定められた所定単位を修得すること。
知識情報・図書館学類	秋学期終了時において卒業の要件として必要な単位を90単位以上修得し、成績が上位3位以内である者	卒業研究の内容が優秀であると認められた者

(雑則)

第8条 この部局細則に定めるもののほか、主専攻分野の選択時期、卒業研究の選択及び提出時期その他学類における授業科目の履修に関し必要な事項は、学類教育会議の議を経て、学類長が定め、学内に公示するものとする。

附 則

この部局細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平20. 1. 16情報学群部局細則1号)

- この部局細則は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成19年度入学者にあつては、この部局細則による改正後の別表第1及び別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平20. 4. 1情報学群部局細則2号)

- 1 この部局細則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則の施行前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

附 則（平22. 2. 18情報学群部局細則1号）

- 1 この部局細則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則の施行前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

附 則（平23. 2. 17情報学群部局細則1号）

- 1 この部局細則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則の施行前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

附 則（平24. 2. 15情報学群部局細則1号）

- 1 この部局細則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則の施行前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

附 則（平25. 1. 16情報学群部局細則1号）

- 1 この部局細則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則の施行前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

附 則（平25. 11. 13情報学群部局細則2号）

- 1 この部局細則は、平成25年7月1日から施行し、同年4月1日から適用する。
- 2 平成24年度以前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

附 則（平26. 1. 15情報学群部局細則1号）

- 1 この部局細則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則の施行前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

附 則（平26. 12. 24情報学群部局細則2号）

- 1 この部局規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則の施行前に情報学群に入学した者に適用される履修方法等にあつては、なお従前の例による。

(別表 1 平成 27 年度入学者対象)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																												
	専門科目					専門基礎科目							基礎科目										計			合			
													共通科目					関連科目											
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	選択科目	自由科目	計							
知識科学	卒業研究	6	G E 6	20～28	—	—	情報基礎	2	G A 1	32～40	—	—	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナーを含む)	2	総合科目Ⅰ	0～12	—	—	—	—	G A、G E、共通科目、及び教職に関する科目以外	0～12	—	—	51.5	74	0	125.5	
	専門英語B	1					情報基礎実習	1	G E 2				総合科目Ⅱ		総合科目Ⅱ														
	専門英語C	1					プログラミング演習Ⅰ	2					総合科目Ⅲ		総合科目Ⅲ														
	知識科学実習	2					プログラミング演習Ⅱ	2					総合科目Ⅱ	5	体育														
			G A 4	8～16			情報数学	2	G E 3	0～8			総合科目Ⅲ	1	外国語														
			G E 4				統計	2					体育	2	国語														
			G E 7				哲学	2					第1外国語(英語)	6	芸術														
			G E 8				知識情報概論	2					第2外国語(初修外国語)	3															
							専門英語A	1.5																					
			知識情報特論			2	知識情報演習Ⅰ	2																					
							知識情報演習Ⅱ	2																					
							知識情報演習Ⅲ	2																					
	単位合計	10		30～38		0		22.5		32～40		0		19		0～12		0		0		0～12		0	51.5	74	0	125.5	
知識情報システム	卒業研究	6	G E 7	20～28	—	—	情報基礎	2	G A 1	32～40	—	—	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナーを含む)	2	総合科目Ⅰ	0～12	—	—	—	—	G A、G E、共通科目、及び教職に関する科目以外	0～12	—	—	51.5	74	0	125.5	
	専門英語B	1					情報基礎実習	1	G E 2				総合科目Ⅱ		総合科目Ⅱ														
	専門英語C	1					プログラミング演習Ⅰ	2					総合科目Ⅲ		総合科目Ⅲ														
	知識情報システム実習	2					プログラミング演習Ⅱ	2					総合科目Ⅱ	5	体育														
			G A 4	8～16			情報数学	2	G E 3	0～8			総合科目Ⅲ	1	外国語														
			G E 4				統計	2					体育	2	国語														
			G E 6				哲学	2					第1外国語(英語)	6	芸術														
			G E 8				知識情報概論	2					第2外国語(初修外国語)	3															
							専門英語A	1.5																					
			知識情報特論			2	知識情報演習Ⅰ	2																					
							知識情報演習Ⅱ	2																					
							知識情報演習Ⅲ	2																					
	単位合計	10		30～38		0		22.5		32～40		0		19		0～12		0		0		0～12		0	51.5	74	0	125.5	

(別表 1 続・平成 27 年度入学者対象)

主 専 攻 分 野	卒 業 に 必 要 な 履 修 科 目 及 び 修 得 単 位 数																																				
	専 門 科 目						専 門 基 礎 科 目						基 礎 科 目										計			合 計											
													共 通 科 目						関 連 科 目																		
必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	選 択 科 目	自 由 科 目											
情 報 資 源 経 営	卒業研究	6	G E 8	20～28	—	—	情報基礎	2	G A 1	32～40	—	—	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナーを含む)	2	総合科目Ⅰ	0～12	—	—	—	—	G A、G E、共通科目、及び教職に関する科目以外	0～12	—	—	51.5	74	0	125.5									
	専門英語B	1					情報基礎実習	1	G E 2					総合科目Ⅱ																							
	専門英語C	1					プログラミング演習Ⅰ	2						総合科目Ⅲ																							
	情報資源経営実習	2					プログラミング演習Ⅱ	2					総合科目Ⅱ	5	体育																						
			G A 4	8～16			情報数学	2	G E 3	0～8	総合科目Ⅲ	1	外国語																								
			G E 4			統計	2			体育	2	国語																									
			G E 6			哲学	2			第1外国語(英語)	6	芸術																									
			G E 7			知識情報概論	2			第2外国語(初修外国語)	3																										
						専門英語A	1.5																														
			知識情報特論	2		知識情報演習Ⅰ	2																														
					知識情報演習Ⅱ	2																															
					知識情報演習Ⅲ	2																															
	単位合計	10	30～38				0	22.5				32～40				0	19				0～12				0	0				0～12				0	51.5	74	0

- (注) 1. この表に掲げる単位数は、卒業に必要な最少の数値を表す。
2. 同一の授業科目を重複して、他の科目欄の授業科目とすること又は同一の科目欄の他の授業科目とすることはできない。
3. 各科目欄に掲げる記号及び番号は授業科目番号で、当該記号及び番号で始まる授業科目のグループを表す。
4. 「総合科目」、「体育」、「外国語」、「国語」及び「芸術」は、それぞれ当該授業科目として開設しているものの中から、「基礎科目（共通科目）の履修方法」にしたがって履修する。
5. 総合科目Ⅱについては、科目群 A 及び科目群 B のそれぞれから 2 単位を含む合計 5 単位を必修とする。
6. 編入学又は転入学を許可された者及び入学前又は入学後に他大学等において授業科目を履修し、又は学修を行った者で、他大学等において「専門英語 A」に相当する科目を履修したものに係る当該授業科目の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、次のとおりとする。
- 専門英語 A 1 単位
7. 知識情報・図書館学類長が教育上有益と認める場合は、この表の規定にかかわらず、第 1 外国語として英語以外の外国語の選択を認めることがある。
8. 卒業研究の履修に当たっては、卒業に必要な履修科目の中から合計 90 単位以上修得している（卒業に必要な未修得単位数が 35.5 単位以下となっている）こととする。

(注：平成 27 年度の開講形態に合わせて修正)

(別表2 平成23～26年度入学者・平成25～28年度編入学者対象)

主 専 攻 分 野	卒 業 に 必 要 な 履 修 科 目 及 び 修 得 単 位 数																															
	専 門 科 目						専 門 基 礎 科 目						基 礎 科 目										計			合 計						
													共 通 科 目						関 連 科 目													
	必修 科目	単位 数	選択 科目	単位 数	自由 科目	単位 数	必修 科目	単位 数	選択 科目	単位 数	自由 科目	単位 数	必修 科目	単位 数	選択 科目	単位 数	自由 科目	単位 数	必修 科目	単位 数	選択 科目	単位 数	自由 科目	単位 数	必修 科目	単位 数	選択 科目	単位 数	自由 科目	単位 数		
知識科学	卒業研究	6	GE 6	20	GE 4	0～8	情報基礎	2	GE 2	32	GE 2	0～8	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナーを含む)	2	—	—	総合科目Ⅰ	0～12	—	—	—	GA、GE、共通科目、及び教職に関する科目以外	0～12	51.5	62	12	125.5					
	専門英語B	1	GE 6 GE 7 GE 8	8	情報基礎実習	1	GA	GE 3 GA	総合科目Ⅱ (フレッシュマン・セミナーを含む)	6	体育	2	総合科目Ⅱ	6	体育	2	第一外国語 (英語)		6	第二外国語 (初修外国語)	3											
	専門英語C	1			プログラミング演習Ⅰ	2																										
	知識科学実習	2			プログラミング演習Ⅱ	2																										
		GE 4 GE 7 GE 8	情報数学		2																											
			統計		2																											
			哲学	2																												
			知識情報概論	2																												
		専門英語A	1.5																													
		知識情報演習Ⅰ	2																													
	知識情報演習Ⅱ	2																														
	知識情報演習Ⅲ	2																														
	単位合計	10	30			0～8		22.5			32			0～8		19		0		0～12			0		0		0～12			51.5	62	12
知識情報システム	卒業研究	6	GE 7	20	GE 4	0～8	情報基礎	2	GE 2	32	GE 2	0～8	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナーを含む)	2	—	—	総合科目Ⅰ	0～12	—	—	—	GA、GE、共通科目、及び教職に関する科目以外	0～12	51.5	62	12	125.5					
	専門英語B	1	GE 6 GE 7 GE 8	8	情報基礎実習	1	GA	GE 3 GA	総合科目Ⅱ (フレッシュマン・セミナーを含む)	6	体育	2	総合科目Ⅱ	6	体育	2	第一外国語 (英語)		6	第二外国語 (初修外国語)	3											
	専門英語C	1			プログラミング演習Ⅰ	2																										
	知識情報システム実習	2			プログラミング演習Ⅱ	2																										
		GE 4 GE 6 GE 8	情報数学		2																											
			統計		2																											
			哲学	2																												
			知識情報概論	2																												
		専門英語A	1.5																													
		知識情報演習Ⅰ	2																													
	知識情報演習Ⅱ	2																														
	知識情報演習Ⅲ	2																														
	単位合計	10	30			0～8		22.5			32			0～8		19		0		0～12			0		0		0～12			51.5	62	12

(別表2 続・平成23～26年度入学者・平成25～28年度編入学者対象)

主 専 攻 分 野	卒 業 に 必 要 な 履 修 科 目 及 び 修 得 単 位 数																											
	専 門 科 目					専 門 基 礎 科 目						基 礎 科 目										計			合 計			
												共 通 科 目					関 連 科 目											
	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数				
情 報 資 源 経 営	卒業研究	6	GE 8	20	GE 4	0～8	情報基礎	2	GE 2	32	GE 2	0～8	総合科目Ⅰ (フレッシュマン・セミナーを含む)	2	—	—	総合科目Ⅰ	0～12	—	—	—	—	GA、GE、共通科目、及び教職に関する科目以外	0～12		51.5	62	12
	専門英語B	1			GE 6		情報基礎実習	1	GA		GE 3		総合科目Ⅱ	6			総合科目Ⅱ											
	専門英語C	1			GE 7		プログラミング演習Ⅰ	2	GA		GE 3		GA	6			6											
	情報資源経営実習	2			GE 8		プログラミング演習Ⅱ	2	総合科目Ⅱ		6		6															
		GE 4 GE 6 GE 7	8	情報数学	2		体育	2																				
			統計	2	第一外国語(英語)		6																					
			哲学	2	第二外国語(初修外国語)	3																						
			知識情報概論	2	専門英語A	1.5																						
		知識情報特論	2	知識情報演習Ⅰ	2																							
				知識情報演習Ⅱ	2																							
			知識情報演習Ⅲ	2																								
	単位合計	10		30		0～8		22.5		32		0～8		19	0		0～12		0		0		0～12	51.5	62	12	125.5	

(注) 1. この表に掲げる単位数は、卒業に必要な最少の数値を表す。

2. 同一の授業科目を重複して、他の科目欄の授業科目とすること又は同一の科目欄の他の授業科目とすることはできない。

3. 各科目欄に掲げる記号及び番号は、授業科目番号で、当該記号及び番号で始まる授業科目のグループを表す。

4. 「総合科目」、「体育」、「外国語」、「国語」及び「芸術」は、それぞれ当該授業科目として開設しているもののうちから、「基礎科目（共通科目）の履修方法」にしたがって履修する。

5. 総合科目Ⅱについては、科目群A及び科目群Bのそれぞれから2単位を含む合計6単位を必修とする。

6. 編入学又は転入学を許可された者及び入学前又は入学後に他大学等において授業科目を履修し、又は学修を行った者で、他大学等において「総合科目」、「専門英語A」に相当する科目を履修したものに係る当該授業科目の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、次のとおりとする。

総合科目Ⅰ及びⅡ 8単位 専門英語A 1単位

7. 卒業研究の履修に当たっては、卒業に必要な履修科目の中から合計90単位以上修得している（卒業に必要な未修得単位が35.5単位以下となっている）こと。

(注 平成27年度の開講形態に合わせて修正)

(別表3 平成20～22年度入学者・平成22～24年度編入学者対象)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																											
	専門科目						専門基礎科目						基礎科目										計			合計		
													共通科目				関連科目											
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	区分	単位数		必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	選択科目	自由科目				
必修科目														自由科目														
知識科学	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	6	GE 6	20	GE 4	0～8	情報基礎	2	次に掲げるものの中から学類長が指定する授業科目	32	GE 2	0～8	総合科目	A	6	0～6	第2外国語	3	—	—	GE 以外 外国語中級・上級 (教職に関する科目は除く。)	0～12	51.5	62	12	125.5		
			情報基礎実習		1		B	1			—																	
		情報リテラシ実習	1	体育	2	0～2																						
	GE 4	8	GE 8	プロダクション演習Ⅰ	2	GE 2 GA	第1外国語	4.5		—																		
	専門英語Ⅲ	1	GE 7	プロダクション演習Ⅱ	2																							
	専門英語Ⅳ	1	GE 8	情報数学	2																							
	知識科学実習	2	知識情報特論	2	統計						2																	
					哲学		2																					
					知識情報概論		2																					
					専門英語Ⅰ		1.5																					
					専門英語Ⅱ		1.5																					
					知識情報演習Ⅰ		2																					
					知識情報演習Ⅱ		2																					
知識情報演習Ⅲ	2																											
単位合計	10	30			0～8		25			32			13.5				0～6		3		0		0～12		51.5	62	12	125.5
知識情報システム	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	6	GE 7	20	GE 4	0～8	情報基礎	2	次に掲げるものの中から学類長が指定する授業科目	32	GE 2	0～8	総合科目	A	6	0～6	第2外国語	3	—	—	GE 以外 外国語中級・上級 (教職に関する科目は除く。)	0～12	51.5	62	12	125.5		
			情報基礎実習		1		B	1			—																	
		情報リテラシ実習	1	体育	2	0～2																						
	GE 4	8	GE 8	プロダクション演習Ⅰ	2	GE 2 GA	第1外国語	4.5		—																		
	専門英語Ⅲ	1	GE 6	プロダクション演習Ⅱ	2																							
	専門英語Ⅳ	1	GE 8	情報数学	2																							
	知識情報システム実習	2	知識情報特論	2	統計						2																	
					哲学		2																					
					知識情報概論		2																					
					専門英語Ⅰ		1.5																					
					専門英語Ⅱ		1.5																					
					知識情報演習Ⅰ		2																					
					知識情報演習Ⅱ		2																					
知識情報演習Ⅲ	2																											
単位合計	10	30			0～8		25			32			13.5				0～6		3		0		0～12		51.5	62	12	125.5

(別表3 続・平成20～22年度入学者・平成22～24年度編入学者対象)

主 専 攻 分 野	卒 業 に 必 要 な 履 修 科 目 及 び 修 得 単 位 数																																
	専 門 科 目						専 門 基 礎 科 目						基 礎 科 目								計			合 計									
													共 通 科 目				関 連 科 目																
	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	区 分	単位数		必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	選 択 科 目		自 由 科 目								
必修科目														自由科目																			
情 報 資 源 経 営	卒業研究 （90単位以上を修得していること。）	6	GE 8	20	GE 4 GE 6 GE 7	0～8	情報基礎	2	次に掲げるもの のうちから 学類長が 指定する 授業科目	32	GE 2 GE 3 GA	0～8	総合 科目	A	6	0～6	第2外国語	3	—	—	GE 以外 外国語中 級・上級 （教職に 関する科 目は除 く。）	0～ 12	51.5	62	12	125.5							
						情報基礎実習	1	B		1	—																						
						情報リテラシ実習	1	体育		2	0～2																						
						ア'ロ'ラミング'演習Ⅰ	2																										
						ア'ロ'ラミング'演習Ⅱ	2																										
	専門英語Ⅲ	1	GE 6	8	GE 8		情報数学	2		GE 2 GA				第1外国語	4.5	—																	
	専門英語Ⅳ	1	GE 7				統計	2																									
	情報資源経営実習	2	知識情報特論	2			哲学	2																									
							知識情報概論	2																									
							専門英語Ⅰ	1.5																									
							専門英語Ⅱ	1.5																									
							知識情報演習Ⅰ	2																									
							知識情報演習Ⅱ	2																									
							知識情報演習Ⅲ	2																									
単位合計	10		30		0～8		25		32		0～8			13.5	0～6		3		0		0～12	51.5	62	12	125.5								

- (注) 1. この表に掲げる単位数は、卒業に必要な最少の数値を表す。
2. 同一の授業科目を重複して、他の科目欄の授業科目とすること又は同一の科目欄の他の授業科目とすることはできない。
3. 各科目欄に掲げる記号及び番号は、授業科目番号で、当該記号及び番号で始まる授業科目のグループを表す。
4. 「総合科目」、「体育」及び「第1外国語」は、共通科目として開設しているものから履修する。
5. 編入学又は転入学を許可された者及び入学前又は入学後に他大学等において授業科目を履修し、又は学修を行った者で、他大学等において「総合科目」又は「第1外国語」に相当する科目を履修したものに係る当該授業科目の卒業に必要な修得単位数は、この表にかかわらず、次のとおりとする。
総合科目A及びB 合計6単位 第1外国語 4単位
6. 留学生及び外国において中等教育を受けた学生で、「第1外国語」として修得すべき単位を日本語・日本事情等に関する科目の単位数で振り替えることとされたものに係る「第1外国語」の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、4単位とする。

(注 平成27年度の開講形態に合わせて修正)

情報学群 知識情報・図書館学類

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		中学校			
社 会	日本史及び外国史	1 以上	日本史及び外国史	(日本語・日本文化学類開設) ◎日本の歴史概論, ◎欧米の歴史と文化, ◎東洋の歴史と文化 (知識情報・図書館学類開設) 日本図書学, 中国図書学, 図書館文化史論	
	地理学(地誌を含む。)	1 以上	地理学(地誌を含む。)	(地球学類開設) ◎人文地理学, ◎地誌学 (知識情報・図書館学類開設) 教育文化政策	
	「法律学, 政治学」	1 以上	「法律学, 政治学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報法, 知的財産権論 A, 図書館情報法制度論	
	「社会学, 経済学」	1 以上	「社会学, 経済学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論	
	「哲学, 倫理学, 宗教学」	1 以上	「哲学, 倫理学, 宗教学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎哲学, 知識論	
合 計 (中学一種)		2 0			

(注) 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

情報学群 知識情報・図書館学類

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		高等学校			
公 民	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1 以上	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報法, 知的財産権論 A, 図書館情報法制度論	
	「社会学, 経済学（国際経済を含む。）」	1 以上	「社会学, 経済学（国際経済を含む。）」	(知識情報・図書館学類開設) ◎メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論	
	「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	1 以上	「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎哲学, 知識論, メディア教育の実践と評価	
合 計 (高校一種)		2 0			

(注) 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

情報学群 知識情報・図書館学類

免許教科	免許法に規定する科目			区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数				
		中学校	高等学校			
数	代数学	1 以上	1 以上	代数学	(知識情報・図書館学類開設) ◎基礎数学 B, 情報数学	
	幾何学	1 以上	1 以上	幾何学	(情報メディア創成学類開設) ◎CG 基礎, 情報数学Ⅲ, インタラクティブ CG	
	解析学	1 以上	1 以上	解析学	(知識情報・図書館学類開設) ◎基礎数学 A (情報科学類開設) 数値計算法, 解析学Ⅲ, 複素関数論	
学	「確率論, 統計学」	1 以上	1 以上	「確率論, 統計学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎統計, 多変量解析, データマイニング	
	コンピュータ	1 以上	1 以上	コンピュータ	(知識情報・図書館学類開設) ◎データ構造とアルゴリズム, 知識情報演習Ⅲ	
合 計 (中学一種, 高校一種)		2 0	2 0			

(注) 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

情報学群 知識情報・図書館学類

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		高等学校			
情報学群	情報社会及び情報倫理	1 以上	情報社会及び情報倫理	(情報学群開設) ◎情報社会と法制度, 知的財産概論	
	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	1 以上	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) ◎プログラミング演習Ⅰ, データ表現と処理, コンピュータシステムとネットワーク	
	情報システム (実習を含む。)	1 以上	情報システム (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報検索システム 情報システム概説, データベース概説, 自然言語解析基礎	
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	1 以上	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) ◎Web プログラミング, クラウドコンピューティング	
	マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	1 以上	マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) ◎マルチメディアシステム, ◎プログラミング演習Ⅱ, デジタルドキュメント, 情報デザインとインタフェース, マークアップ言語	
	情報と職業	1 以上	情報と職業	(教職科目その他開設) ◎情報と職業 (知識情報・図書館学類開設) インターンシップ	
合 計 (高校一種)		2 0			

(注) 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

大学において修得すべき図書館に関する科目〔新課程〕（平成24年度以降入学・編入学者用）

区分	図書館法施行規則に定める科目		本学における開設授業科目			備考
	科目	単位数	授業科目	単位数	開設学類	
甲群 必修11科目・22単位	生涯学習概論	2	生涯学習と図書館	2	知識情報・ 図書館学類	
	図書館概論	2	図書館概論	2		
	図書館制度・経営論	2	経営・組織論	2		2科目を履修
			図書館情報法制度論	2		
	図書館情報技術論	2	情報基礎	2		
	図書館サービス概論	2	情報サービス経営論	2		
	情報サービス論	2	情報探索論	2		いずれか1科目選択
			情報サービス構成論	2		
	児童サービス論	2	読書と豊かな人間性	2		
	情報サービス演習	2	知識情報演習Ⅱ	2		2科目を履修
			情報基礎実習	1		
	図書館情報資源概論	2	コレクションとアクセス	2		
	情報資源組織論	2	知識資源組織化論	2		
乙群 選択2科目・2単位	情報資源組織演習	2	知識情報演習Ⅰ	2		2科目を履修
			知識情報演習Ⅲ	2		
	図書館基礎特論	1	図書館論	2		
	図書館サービス特論	1	デジタルライブラリ	2		
	図書館情報資源特論	1	日本図書学	2		いずれか1科目選択
			中国図書学	2		
			知識資源の分析	2		
			知識資源の用語管理	2		
			学術メディア論	2		
			デジタルドキュメント	2		
	図書・図書館史	1	図書館文化史論	2		
	図書館施設論	1	図書館建築論	2		
	図書館実習	1	インターンシップ	2		
	図書館総合演習	1				

（備考）司書資格を取得した者には「資格取得証明書」を発行します。卒業後に教育推進課に申し込んでください。

他学で修得した単位と合算して司書資格を取得する場合は、本学で修得した図書館に関する科目について「単位修得証明書」を発行します。

大学において修得すべき図書館に関する科目（平成 23 年度以前入学・編入学者用）

平成 23 年度以前の入学者・編入学者が移行措置によって旧課程のもとで司書資格を取得する場合に用いること、本学を卒業しなかったり、卒業時点で必要な全ての単位を修得できなかったりした場合、司書資格の取得には新課程の定める単位が必要となる。

区分	図書館法施行規則に定める科目		本学における開設授業科目			備考
	科目	単位数	授業科目	単位数	開設学類	
甲群 必修 12科目・ 18単位	生涯学習概論	1	生涯学習と図書館	2	知識情報・図書館学類	
	図書館概論	2	図書館論（～H22 年度）	2		いずれか 1 科目選択
			図書館概論			
	図書館経営論	1	経営・組織論	2		
	図書館サービス論	2	情報サービス経営論	2		
	情報サービス概説	2	情報探索論	2		いずれか 1 科目選択
			情報サービス構成論			
	レファレンスサービス演習	1	知識情報演習Ⅱ	2		
	情報検索演習	1	情報基礎実習	1		
	図書館資料論	2	コレクションとアクセス	2		
	専門資料論	1	学術メディア論	2		
	資料組織概説	2	知識資源組織化論	2		
	資料組織演習	2	知識情報演習Ⅰ	2		
	児童サービス論	1	メディア教育と発達	2		いずれか 1 科目選択
			読書と豊かな人間性（H22 年度～）			
乙群 選択 2科目・2単位以上	図書及び図書館史	1	図書館文化史論（～H23 年度）	2	知識情報・図書館学類	
	資料特論	1	日本図書館学（～H23 年度）	2		いずれか 1 科目選択
			中国図書館学（～H23 年度）	2		
			デジタルドキュメント（～H23 年度）	2		
	コミュニケーション論	1	知識形成論（～H21 年度）	2		
	情報機器論	1	情報基礎（～H23 年度）	2		
	図書館特論	1	デジタルライブラリ（～H23 年度）	2	いずれか 1 科目選択	
			インターンシップ（～H23 年度）	2		
	図書館基礎特論	1	図書館論（H24 年度～）	2		
	図書館サービス特論	1	デジタルライブラリ（H24 年度～）	2		
	図書・図書館史	1	図書館文化史論（H24 年度～）	2		
	図書館施設論	1	図書館建築論（H24 年度～）	2		
図書館実習	1	インターンシップ（H24 年度～）	2			

注 1 学術メディア論に代えて平成 24 年度以降のデジタルドキュメント、日本図書館学、中国図書館学、知識資源の分析、知識資源の用語管理を修得することも可

注 2 平成 21 年度以前の「読書と豊かな人間性」、平成 22 年度以降の「知識形成論」、平成 23 年度以前の「知識資源の分析」「知識資源の用語管理」「図書館建築論」、平成 23 年度の「図書館論」は図書館に関する科目にはなりません。「メディア教育と発達」は平成 22 年度以降開講していません。

大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目		本学における開設授業科目			備考
科 目	単位数	授 業 科 目	単位数	開設学類	
学校経営と学校図書館	2	学校図書館論	2	知識情報・図書館学類	
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2		
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2		
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2		
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2		

(備考)

司書教諭講習に相当する科目として修得した単位は、各学群の履修細則の定めるところにより、卒業要件の単位として算入できます。

司書教諭の資格を取得するためには、司書教諭講習に相当する科目を全て修得した後に、学校図書館法第5条第3項の規定に基づく「学校図書館司書教諭講習」に、書類参加の手続きが必要です。手続方法については、掲示でお知らせします。

大学が単位を与える学修一覧

検 定 名	対象となる級等	認定対象科目
(財)日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定	1級・準1級	総合英語 (1.5単位) ※注1
TOEFL		
ペーパー版テストの点数	550点以上	
コンピュータ版テスト	213点以上	
インターネット版TOEFL	79点以上	
TOEIC	730点以上	ドイツ語基礎A, B (1.5単位)
(財)ドイツ語学文学振興協会が実施するドイツ語技能検定	1級・準1級・2級・3級	
ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験	基礎統一試験以上	フランス語基礎A, B (1.5単位)
(財)フランス語教育振興協会が実施する 実用フランス語技能検定	1級・準1級・2級・3級	
ロシア語検定試験実行委員会が実施する ロシア語検定試験	第4・第3・第2・第1・基礎	ロシア語基礎A, B (1.5単位)
(財)日本スペイン協会が実施するスペイン語技能検定	1級・2級・3級・4級・5級	スペイン語基礎A, B (1.5単位)

- (注) 1 実用英語技能検定及びTOEFL又はTOEICは、いずれか1つの試験についてのみ認定する。
2 この表に掲げるもののほか、専門基礎科目及び専門科目として認定する単位は、45時間の学修をもって換算する単位とする。
3 共通科目等開設組織等において定める基準を最低の基準とし、それ以上の基準により各学類・専門学群において与えることができる単位を表す。
4 ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験の「基礎統一試験」以上の試験とは「職業ドイツ語検定試験」「ドイツ語中級統一試験」「国際ビジネスドイツ語検定試験」「ドイツ語上級統一試験」「ドイツ語小ディプロム試験」及び「ドイツ語大ディプロム試験」を表す。
5 ロシア語検定における認定の基準は、検定試験結果の基礎レベル以上とする。
(第4レベル、第3レベル、第2レベル、第1レベル及び基礎レベル)

テクニカルコミュニケーター専門課程に対応した開設科目一覧

TC 専門課程における分野		知識情報・図書館学類における開設科目	
知能と能力の分野	単位数	科目名	単位数
TC 基礎	2	テクニカルコミュニケーション	2
情報収集と分析	2	量的調査法	2
		質的調査法	2
企画・設計	2	知識発見基礎論	2
情報アーキテクチャー	2	情報基礎	2
		情報システム概説	2
		デジタルドキュメント	2
制作管理・ディレクション	2	知識科学実習	2
		知識情報システム実習	2
		情報資源経営実習（情報経営・図書館実習）	2
デザイン・表現設計	2	知識情報演習 II	2
		情報デザインとインタフェース	2
ライティング	2	情報基礎実習	1
		情報リテラシ実習	1
英文ライティング	2	専門英語 B（専門英語 III）	1
		専門英語 C（専門英語 IV）	1
周辺分野	2	知的財産概論	2
		国際インターンシップ	2

＊テクニカルコミュニケーター専門課程は複数の分野から構成されており、上の表には、各分野に対応する知識情報・図書館学類の開講科目が示してあります。各分野の必要単位数を充足するよう表中の 18 単位以上の開講科目を履修し、協会に申請することで、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定証を得ることができます。ただし、履修は平成 24 年度以降の開講科目であることが必要です。また、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定は他大学で取得した単位を合わせての申請も可能です。

MEMO

索 引

	氏名		職位	研究室	メールアドレス	担当科目	その他
1	いけうち あつし 池内 淳	Ikeuchi Atsushi	准教授	7D413	atsushi@slis	(サバディカル)	
2	いしい かおり 石井 夏生利	Ishii Kaori	准教授	7D509	kaoriish@slis	情報社会と法制度 情報法	
3	いづむら ひろし 逸村 裕	Itsumura Hiroshi	教授	専攻長室	hits@slis	情報基礎実習-1,-2 学術情報基盤論	専攻長
4	いwasawa まりこ 岩澤 まり子	Iwasawa Mariko	教授	7D304	miwasawa@slis	インターンシップ 情報探索論 医療情報論	
5	うだ のりひこ 宇陀 則彦	Uda Norihiko	准教授	7D210	uda@slis	知識情報概論 知識情報特論Ⅲ 知識情報特論Ⅳ デジタルライブラリ	4-5担任
6	おおさわ ふみと 大澤 文人	Oosawa Fumito	助教	7D115	osawa@slis	プログラミング演習Ⅱ-3 情報メディアの活用	3-2担任
7	おおば いちろう 大庭 一郎	Ohba Ichiro	講師	7D113	iohba@slis	経営・組織論 情報サービス構成論	
8	こいずみ まさのり 小泉 公乃	Koizumi Masanori	助教	7D310	koizumi@slis	情報基礎実習-1,-2	
9	ごとう よしひろ 後藤 嘉宏	Goto Yoshihiro	教授	7D513	ygoto@slis	メディア社会学 メディア社会文化論	
10	さかぐち てつお 阪口 哲男	Sakaguchi Tetsuo	准教授	7D312	saka@slis	コンピュータシステムとネットワーク Webプログラミング 知的探求の世界Ⅰ-5	3-3担任
11	さとろ てつじ 佐藤 哲司	Satoh Tetsuji	教授	7D205	satoh@slis	情報システム概説 テキスト処理 知的探求の世界Ⅰ-2 知的探求の世界Ⅱ-2	
12	さんなみ ちほみ 三波 千穂美	Sannami Chihomi	講師	7D302	sannami@slis	学校図書館メディアの構成 テクニカルコミュニケーション サイエンスコミュニケーション	2-4担任
13	じょうほ ひでお 上保 秀夫	Joho Hideo	准教授	7D408	hideo@slis	知識情報演習Ⅲ-1 国際インターンシップ 専門英語C-1 レファレンスサイエンス 知的探求の世界Ⅰ-4	2-3担任
14	しらい てつや 白井 哲哉	Shirai Tetsuya	教授	7D407	tetsushi@slis	テキスト解釈-1 インターンシップ アーカイブズ学	
15	すずき かなえ 鈴木 佳苗	Suzuki Kanae	准教授	7D112	kanae@slis	インターンシップ 読書と豊かな人間性 メディア教育の実践と評価	3-4担任
16	すずき のぶたか 鈴木 伸崇	Suzuki Nobutaka	准教授	7D204	nsuzuki@slis	情報基礎 知識情報演習Ⅰ-2 データ表現と処理	
17	せき ようへい 関 洋平	Seki Yohei	助教	7D213	yohei@slis	フレッシュマン・セミナー 情報リテラシ実習 自然言語解析基礎 情報検索システム	1-2担任
18	たかく まさお 高久 雅生	Takaku Masao	准教授	7D208	masao@slis	フレッシュマン・セミナー 情報リテラシ実習 情報基礎実習-1,-2 統計 デジタルドキュメント	1-3担任
19	たむら はじめ 田村 肇	Tamura Hajime	准教授	7D311	tamura@slis	多変量解析-1 情報経済論	
20	つじ けいた 辻 慶太	Tsuji Keita	准教授	7D512	keita@slis	知識情報演習Ⅱ-2 知識情報演習Ⅲ-2 知識資源の用語管理	
21	つじ やすあき 辻 泰明	Tsuji Yasuaki	教授	—	tsujiy@slis	専門英語C-3 映像メディア論	
22	てづか たろう 手塚 太郎	Taro Tezuka	准教授	7D215	tezuka@slis	知識情報演習Ⅰ-1 知識情報特論Ⅲ 知識情報特論Ⅳ 国際インターンシップ データベース概説	4-3担任
23	てるやま じゅんこ 照山 絢子	Teruyama Junko	助教	7D305	teruyama@slis	質的調査法 知識コミュニケーション	
24	ときい まき 時井 真紀	Tokii Maki	講師	7D203	tmaki@slis	プログラミング演習Ⅰ-1,-2 情報デザインとインタフェース	
25	としもり あつし 歳森 敦	Toshimori Atsushi	教授	7D114	tosimori@slis	量的調査法 コミュニティ情報論	
26	どんかい さおり 呑海 沙織	Donkai Saori	准教授	7D403	donkai@slis	知識情報演習Ⅰ-1,-2 知識情報特論Ⅲ 知識情報特論Ⅳ 図書館文化史論	4-4担任

	氏名		職位	研究室	メールアドレス	担当科目	その他
27	なかやま しんいち 中山 伸一	Nakayama Shin-ichi	教授	7D410	nakayama@slis	知識発見基礎論	図書館長 副学長
28	はせがわ ひでひこ 長谷川 秀彦	Hasegawa Hidehiko	教授	学類長室	hasegawa@slis	体験型システム開発A 体験型システム開発B 情報数学 データマイニング	学類長
29	はら あつゆき 原 淳之	Hara Atsuyuki	助教	7D406	ahara@slis	知識情報演習II-1,-2 知識情報特論III 知識情報特論IV 情報サービス経営論 図書館論	4-2担任
30	バーレイシェフ エドワルド	Baryshev Eduard	助教	7D415	baryshev@slis	専門英語B-2 国際インターンシップ アーカイブズの利用	
31	ひらくえ ゆうじ 平久江 祐司	Hirakue Yuji	教授	7D404	hirakue@slis	学習指導と学校図書館 学校図書館論 インターンシップ	2-2担任
32	まえしろ てつや 真栄城 哲也	Maeshiro Tetsuya	准教授	7D409	maeshiro@slis	プログラミング演習II-1,-2 生命情報学	
33	まつばやし まみこ 松林 麻美子	Matsubayashi Mamiko	講師	7D111	mamiko@slis	情報行動論 学術メディア論	
34	まつむら あつし 松村 敦	Matsumura Atsushi	助教	7D212	matsumur@slis	プログラミング演習I-1,-2 専門英語C-2 情報サービスシステム	
35	まつもと こういち 松本 浩一	Matsumoto Koichi	教授	7D301	matsuko@slis	テキスト解釈-2 知識情報特論III 知識情報特論IV 中国図書学	4-1担任*
36	まつもと まこと 松本 紳	Matsumoto Makoto	教授	系長室	amy@slis	マルチメディアシステム	系長
37	みずしま えいじ 水嶋 英治	Mizushima Eiji	教授	7D303	mizushima@slis	知識情報演習III-2 知識資源組織化論 国際インターンシップ 知識資源の記述	2-1担任*
38	みづうえ ちえこ 溝上 智恵子	Mizoue Chieko	教授	7D504	mizoue@slis	生涯学習と図書館 国際インターンシップ 教育文化政策	3-5担任
39	みどりかわ のぶゆき 緑川 信之	Midorikawa Nobuyuki	教授	7D306	midorika@slis	知識情報演習III-1 知識資源組織化論 知識資源の分析	3-1担任*
40	むらい まいこ 村井 麻衣子	Murai Maiko	准教授	7D506	myco@slis	知的財産概論 知的財産権論A	
41	もりつぐ しゅういち 森継 修一	Moritsugu Shuichi	教授	7D214	moritsug@slis	基礎数学B データ構造とアルゴリズム	
42	ゆ はいたお 于 海涛	Haitao Yu	助教	—	yuhaitao@		
43	よこやま みきこ 横山 幹子	Yokoyama Mikiko	准教授	7D405	mikiko@slis	フレッシュマン・セミナー 情報リテラシ実習 哲学 知識論	1-4担任
44	よしかね ふゆき 芳鐘 冬樹	Yoshikane Fuyuki	教授	7D414	fuyuki@slis	知識情報演習II-1 専門英語B-1 情報評価	
45	よしだ ゆうこ 吉田 右子	Yoshida Yuko	教授	7D116	yyoshida@slis	フレッシュマン・セミナー 情報リテラシ実習 図書館概論 コレクションとアクセス	1-1担任*
46	ロー, パトリック	Patrick LO	准教授	7D315	plo@slis	専門英語B-3 Comparative Study on Library and Information Services	
47	わかばやし けい 若林 啓	Wakabayashi Kei	助教	7D207	kwakaba@slis	プログラミング演習II-1, -2 専門英語B-2 クラウドコンピューティング	
48	わたぬき とよあき 綿抜 豊昭	Watanuki Toyoaki	教授	7D511	wata@slis	テキスト解釈-3 日本図書学	センター長
49	もりしま あつゆき 森嶋 厚行	Morishima Atsuyuki	兼任教授	7D507	mori@slis	データベース技術	
50	あまの こう 天野 晃	Amano Kou	非常勤講師	—	学群学務係に照会	知識構造化法	
51	いたい ひろあき 板井 広明	Itai Hiroaki	非常勤講師	—	学群学務係に照会	公共経済学	
52	いわまる よしあき 岩丸 良明	Iwamaru Yoshiaki	非常勤講師	—	学群学務係に照会	経営情報システム論	
53	さかじょう みつのぶ 阪上 晃庸	Sakajo Mitsunobu	非常勤講師	—	学群学務係に照会	特許情報論	
54	しんたに まゆ 新谷 真由	Shintani Mayu	非常勤講師	—	学群学務係に照会	専門英語A-1,-2	

	氏名		職位	研究室	メールアドレス	担当科目	その他
55	すぎもと しげお 杉本 重雄	Sugimoto Shigeo	教授	研究科長室	sugimoto@slis	マークアップ言語	研究科長
56	たかはし しん 高橋 伸	Takahashi Shin	准教授	3F906	shin@cs	ヒューマンインタフェース	
57	たなか じろう 田中 二郎	Tanaka Jiro	教授	SB1004	jiro@cs	ヒューマンインタフェース	
58	ながもり みつはる 永森 光晴	Nagamori Mitsuharu	講師	7D412	nagamori@slis	マークアップ言語	
59	ひらゆ あつし 平湯 あつし	Hirayu Atsushi	非常勤講師	—	学群学務係に照会	テクニカルコミュニケーション	
60	ポーリー, マーティン Pauly, Martin Edmund	Pauly, Martin Edmund	非常勤講師	—	学群学務係に照会	専門英語A-3, -4	
61	もうり るみこ 毛利 るみこ	Mori Rumiko	准教授	7D307	rmouri@slis	図書館情報法制度論	
62	わしづ みお 鷺頭 美央	Washizu Mio	准教授	7D308	washizu@slis	パブリックガバナンス論	

*メールアドレスのドメイン部は「.tsukuba.ac.jp」を省略。例えば「gakumu-k@slis」は「gakumu-k@slis.tsukuba.ac.jp」が正しいメールアドレスです。
非常勤講師へは原則として授業の前後に会うか、学群学務係を経由して連絡してください。

科目名索引

〔A-Z〕

Comparative Study on Library and Information Services.....	174
Web プログラミング	134

〔あ行〕

アーカイブズの構築	150, 173
アーカイブズの利用	149, 176
医療情報論	111
インターンシップ	94
映像メディア論	177

〔か行〕

学習指導と学校図書館.....	89
学術情報基盤論	155
学術メディア論	115
学校図書館メディアの構成.....	90
学校図書館論	165
基礎数学 A.....	50
基礎数学 B.....	67
教育文化政策	163
クラウドコンピューティング.....	143
経営情報システム論	148, 156
経営・組織論	79
公共経済学	81
国際インターンシップ.....	95
コミュニティ情報論	116
コレクションとアクセス.....	162
コンピュータシステムとネットワーク	76

〔さ行〕

サイエンスコミュニケーション.....	121
自然言語解析基礎	77
質的調査法	71
生涯学習と図書館	82
情報基礎	41
情報基礎実習-1	42
情報基礎実習-2.....	43

情報経済論.....	158
情報検索システム	123, 133
情報行動論.....	72
情報サービス経営論.....	157
情報サービス構成論.....	160
情報サービスシステム	130
情報資源経営実習	153
情報システム概説.....	39
情報社会と法制度.....	31
情報数学.....	49
情報探索論.....	70
情報デザインとインタフェース.....	138
情報評価.....	119
情報法.....	166
情報メディアの活用	93
情報リテラシ実習	26
生命情報学.....	124
専門英語 A-1(専門英語 I-1)	63
専門英語 A-2(専門英語 I-2)	64
専門英語 A-3(専門英語 II-1).....	65
専門英語 A-4(専門英語 II-2).....	66
専門英語 B-1(専門英語 III-1).....	100
専門英語 B-2(専門英語 III-2).....	101
専門英語 B-3(専門英語 III-3).....	102
専門英語 C-1(専門英語 IV-1).....	103
専門英語 C-2(専門英語 IV-2).....	104
専門英語 C-3(専門英語 IV-3).....	105
卒業研究.....	106
ソフトウェア工学.....	147

〔た行〕

体験型システム開発 A	33, 96
体験型システム開発 B	34, 97
多変量解析.....	69
知識科学実習	109
知識構造化法.....	118

知識コミュニケーション.....	125	テクニカルコミュニケーション.....	110
知識資源組織化論.....	74	哲学.....	38
知識資源の記述.....	141	統計.....	51
知識資源の分析.....	140	読書と豊かな人間性.....	91
知識資源の用語管理.....	142	図書館概論.....	40
知識情報演習 I-1.....	55	図書館建築論.....	117
知識情報演習 I-2.....	57	図書館情報法制度論.....	169
知識情報演習 II-1.....	59	図書館文化史論.....	170
知識情報演習 II-2.....	60	図書館論.....	154
知識情報演習 III-1.....	61	特許情報論.....	112
知識情報演習 III-2.....	62	〔な行〕	
知識情報概論.....	37	日本図書館学.....	172
知識情報システム実習.....	129	〔は行〕	
知識情報特論 III.....	98	パブリックガバナンス論.....	159
知識情報特論 IV.....	99	ヒューマンインタフェース.....	139
知識発見基礎論.....	73	フレッシュマンセミナー.....	25
知識論.....	113	プログラミング演習 I-1.....	44
知的財産概論.....	32	プログラミング演習 I-2.....	45
知的財産権論 A.....	168	プログラミング演習 II-1.....	46
知的探求の世界 I-2.....	181	プログラミング演習 II-2.....	47
知的探求の世界 I-4.....	183	プログラミング演習 II-3.....	48
知的探求の世界 I-5.....	184	〔ま行〕	
知的探求の世界 II-2.....	185	マークアップ言語.....	146
知的探求の世界 II-5.....	187	マルチメディアシステム.....	135
中国図書館学.....	171	メディア教育の実践と評価.....	171
デジタルドキュメント.....	131	メディア社会学.....	78
デジタルライブラリ.....	132	メディア社会文化論.....	126, 155
データ構造とアルゴリズム.....	122, 145	〔ら行〕	
データ表現と処理.....	136	量的調査法.....	68
データベース概説.....	75	レファレンスサイエンス.....	114
データベース技術.....	137		
データマイニング.....	120		
テキスト処理.....	144		
テキスト解釈-1.....	83		
テキスト解釈-2.....	84		
テキスト解釈-3.....	85		

MEMO